

## 文化・芸術

### 「裸婦」

1916年ごろ、鉛筆・紙  
29・5センチ×22・5センチ

### アメデオ・モディリアーニ

(1884～1920年)

常設展では「松本竣介の見たヨーロッパのモダンアート」として、当館の西洋美術コレクションから、松本竣介(1912～48年)の時代と重なる画家たちの作品をご紹介します。

竣介は1931(昭和6)年ごろから画集などからモディリアーニを知り、この画家を尊敬する「モヂリアニヤン」の一人となりました。竣介にとってその魅力は「量を端的に握(つか)んでいる天下一品の線の秘密」であったといえます。

34年に、東京での福島コレクション展でピカソ、マチス、ルオー、モディリアーニなどの作品を鑑賞し、モディリアーニについては「デフォルマシヨ(変形)の画にとつて常に重大であるといふ事をこれほど画面に決定させた画家は少い」と述べました。

モディリアーニは1916年ごろからは裸婦の連作を手掛けています。本作は片腕に体重をかけて座る、独特の長い顔、瞳のない目の女性。簡潔な線は、女性の豊かな量感ややわらかな肌、リラックしたした肢体を描き出しています。

展示室では竣介の言葉とともに作品をご覧ください。

(大谷)

### 名画の扉

大川美術館コレクションから

